

取らなければ見せない、私共が是ソーンなこと致して居る中に外國の武官らしい人が矢張り見物に参りますると其人達にはサツ／＼と案内して参るのでござります、何せソーンなことを言ふのかと段々尋ねますと先達でも日本人が来て金は後でやるからと云ふので見せまして歸掛けに金を下さいといふと吳れませぬから跡を付いて行きますと、うるさいと言つてイキナリステッキで打ちました、以來さういふ酷い目に遭つて居りますから日本人には先に金を貰はなければならぬと申しました、これは若い人達が冗談半分にさういふことをしたのであらうと思ひますが、さういふ僅かなことの爲に日本人全體がさういふものと思はれますから殘念でござります、支那人といふと日清戦争以來チヤン／＼坊主、チヤン／＼坊主と輕蔑して居りますから自然子供なども見習ひまして甚だ困つたものだと存じます、外國人は決してさういふことはない、支那人だからと申して同一に取扱ひますから信認して居ります、所が日本人といふと皆瞞しでもするものか亂暴でもするかの如く考

へて居りますから、それも非常に殘念なことだと思ひます、どうぞして支那人でも馬鹿にせずにはかりでなく一般個人の交際の上にも同文同種の國でもござりまするから單に政治上商業上の關係ばかりでなく一般個人の交際の上にも麗はしい交際が出来やうかと存じます、甚だ纏りませぬが時間が大分遅れましたから失禮いたします。(完)

六

煙繩に就て

醫學博士

瀬川昌耆氏談

私は今日コチラへ出る積りではなかつたのであります、昨晩下田さんが御出でになりまして是非出て吳れ、代理をやつて吳れと云ふことで、代理のことありますから疎なことは出来ないが、思付いたことを御話したいと思ひます、殊に私の持前は誠に面白くない方の學問でありますから御聽になりましても面白くないかも知れませぬが、

多少御参考にでもなれば本懐と致す所であります
それでどういふことを御話して宜いか、咄嗟のこ
とで本懐とございませぬが、矢張り普通小兒にある
所の病氣の御話であります、是は生れて間もない
時から小兒期を通じて随分ある病氣なんです、本
來この俗に引付けると云ふことを醫學の方で痙攣
と申します、此痙攣といふのは本來病氣ではない
或る一の徵候になつて居りますが、此徵候が著
しい徵候になると引付け引付けと云つて一時病氣
のやうに考へて居ります、本來引付けと云ふのは
種々の病氣の或る徵候になつて居りますので、先
づ引付け即ち痙攣といふのはどういふ病氣に来る
かといふと小兒が生れてから直さに引付けると云
ふことがある、それはどういふ譯で引付けるかと
云ふと平産では餘りさういふことはないが、難産
であつて出産の時に頸を強く壓迫するとか或は產
科醫が器械で引出すと云ふやうな時に頸を壓迫す
る、頭を壓迫するから脳の中から出血する其出血
の刺戟に依つて痙攣を起す、右の方に變化があれ
ば左の方に痙攣を起す、左であれば右半側に痙攣

が現はれると云ふ譯であります、多くの場合左
右兩側に来るといふのは極めて稀れであります、す
る少の變化でありますれば癒るのであります、随
分生れたての子でありますするからどうかと思つて
心配するが、輕症なのは大抵癒るのであります、
これが脳の中の出血から起る第一の引付けであります。
其次に生後間もなく来る痙攣で最も危険な病氣は
破傷風であります、此破傷風といふのは元來一體
に傷があつてさうして其傷からして破傷風菌と云
ふ一種の黴菌が這入つて毒を拵へ其毒の作用から
全身に痙攣を起す、勿論是は小兒ばかりでない大
人にもありまする病氣で隨分廣づて居る病氣であ
ります、これは黴菌が何處に多くあるかといふと
土の中にあるので庭の土だとか、或は泥汎、そ
れから川の淵だとか汚ない沼だとか多く土壤の中
に黴菌があつてそれが爲めに傷があると其處から
泥が這入り或は不潔なもののが這入りたりすると黴
菌もともに這入り、それが原因で病氣になる、能
く溝板を踏外して足に傷を拵へて起つたと云ふ例

がある、或は田舎で漁師などが沿岸の泥の中を素足で歩いて傷を掠へてそれから病氣になつたとか、或は園丁などが庭で怪我をしてそれから起つたとか、大抵足の傷から来る、それで其傷からして一旦破傷風の微菌が這入ると云ふと破傷風といふ痙攣性の病氣を起す、其微菌は今日では能く分つて居ります、丁度大鼓の撲のやうな形で一方がブクランで一方が長くなつて居る微菌です、其微菌が這入つて一種の毒を作つて其毒が全身に廻ると病を起す、其病氣の第一の兆候はドコで分るかといふと多く顔面に發する、顔が何處となく動かなくなる、表情運動が無くなつて顔が一體に固くなつて仕舞ふ、さうして遂に口を開くことも出来なくなる、即ち咀嚼筋が固くなるから話しても返事が出來ず、話すことも不自由になる、飲食することも困難になる、其中に段々強くなつて來て、終に多少の痙攣を起す、引付ける其前項部が固くなつて痛みを覺える、尙一層つよくなると脅中の方が強はばつて痛んで來る、それから手へ來て足へ来る、多くの場合として全身に廣がる、もうさう

なると手も足も何處も皆固くなづてチヨツと人間のやうではない作つた人形のやうな工合に丸で棒で握ります、丁度大鼓の撲のやうな形で一方がブクランで一方が長くなつて居る微菌です、其微菌が這入つて一種の毒を作つて其毒が全身に廻ると病を起す、其病氣の第一の兆候はドコで分るかといふと多く顔面に發する、顔が何處となく動かなくなる、表情運動が無くなつて顔が一體に固くなつて仕舞ふ、さうして遂に口を開くことも出来なくなる、即ち咀嚼筋が固くなるから話しても返事が出來ず、話すことも不自由になる、飲食することも困難になる、其中に段々強くなつて來て、終に多少の痙攣を起す、引付ける其前項部が固くなつて痛みを覺える、尙一層つよくなると脅中の方が強はばつて痛んで來る、それから手へ來て足へ来る、多くの場合として全身に廣がる、もうさうなると手も足も何處も皆固くなづてチヨツと人間のやうに固くなつて仕舞ふ、唯それだけならば苦痛が少ないが其固くなつて居る際に時々痙攣を起す、痙攣がひどくなるから身體が震へる、丁度電氣でも掛けだやうに全身が震へる、其時の苦痛といふものは非常なもので其苦痛を訴へる様は傍で見て居れぬ位であります、此破傷風といふ病氣が生れればかりの子に來ることがある、それはどうして其毒が初生兒に這入るかといふと……初生兒に傷の有りやう譯はないが、臍の緒が落てまだ痕が能く結ばない中にどうかして臍からして破傷風の有りやう譯はないが、臍の緒が落てまだ痕が能く結ばない中にどうかして臍からして破傷風菌が這入ることがある、此破傷風の微菌は泥の中にある、然るに臍と泥とは間隔があるので、臍に泥が這入りさうもないものと思ふけれども、それが知らず識らずの間に何處にか附着して居つたのを知らずに汚れた手を以て臍を处置したといふ所から來るのである、詰り不注意から起るのである、であるから此病氣の子供にあるのは割合に下流社會に多い、上流社會では清潔に取扱ふから罹

ヨツと最初見悪い醫者でも馴れないといふと殊に
よ
依ると診誤ることがある、それでどんな風にして
よ
現れるかといふと顔が何となく變になつて泣かな
よ
くなる、泣いても餘り聲を立てない、それから矢
よ
張り顔が固くなつて口をつぼめるやうになつて來
よ
る、之が傷風の小兒に來る特性である、それで
よ
之を俗に酸漿蟲といふ、丁度酸漿を口に含んで吹
よ
くやうな口付に見へるからであります、それから
よ
ら漢法家の方では之を臍風と言つて居ります、斯
よ
ういふ風に口に特徴があるから素人でも少し注意
よ
して顔を見ると直ぐと分る、それから乳を飲まな
よ
くなる、口へ乳房を含ましても十分に吸はなくな
よ
る、それで變だと云ふので始めて醫師に子供を連
よ
れて行く、まだ其時分は痙攣は何も起らないが、
よ
それが段々進んで行くと全身が固くなつてさうし
よ
て手足が動かなくなる、激しいのになると反り返
よ
つて全身を震はず、さういふ風になると多くは助
よ
がらない死ぬのが多い、けれども輕症であつて手
よ
當が早ければ助かるのであります、近頃其微菌が

はつりん
見され得以來之を治療するに血清療法と云ふこと
を發明した、どういふ治療かといふと先づある
動物例へば馬に微菌の毒を注入する、始めから多
量に注入すると抵抗力に堪えないので死ぬから始め
は死な、一位の極少量の毒を注入して次第に毒に抗
し、馴して行くと云ふと後には死ぬ位の多量の氣を注
入しても死なくなる、それは其毒の爲に一種の
抵抗する力が馬の體に出來るからである、毒に抗
する所の或物質が馬の體内に生ずる譯である、其
物質は血清の中に存して居る、血清は御承知の通
り血を澄して置くといふと血球が沈んで透明な液とな
が殘る其澄んだ所のものを血清といふので、血清
の中には一種の毒に抗する所の物質が含んで居り
ますからして血清を注射すると其力で前の毒を消
して仕舞つて病が治へる、此方法で今日やつて效
を奏して居ります、實布的里亞なども恐しい、癌
らぬものとしてありますたが、血清治療が發見さ
れて以來、早く血清療法をすれば何でもなく癌を
じ道理で癌ると云ふことになつたのであります、破傷風も同

だ十分に効を奏する場合が少ない、詰りまだ非常に強い力の血清を製造することが出来ないのである、それで今日の所では効の有ることもあるが無いこともある、それはどうしてかといふと一旦破傷風に罹るといふと身體の或部分に變化を起す、其變化を起した所は藥を以ても再び元の状態に回復することは出来ない、それで其變化の起らぬ先に注射しなければならぬ、實布的里亞でもさういふ譯である、此血清は詰り毒を調和して療すので徴菌そのものを殺すのではないから實布的里亞なども癒つた後ち長い間その徴菌が喰つ付いて居るそれが段々生活力を失つても幾らか其殘骸が残つて居るが無害になるから病氣が癒る譯である、此療法を發見して以來治療上に稍々心を強うする場合に至つたのであります、まだ完全に奏效を見ると云ふことに至りませぬ、行きませぬが一旦破傷風と云ふ診斷が付いたならば寸時も猶豫せず直ちにこの療法を施さなければならぬ、以上は初生兒に付ての破傷風の状態の一班を申したのであります。

矢張り破傷風と同じやうな工合に毒の力で痙攣を起す病氣がある、それは多くは腸から來る病氣です、日常御經驗になつた方もありますが、多くの場合は子供が朝から工合が悪い、どうも不斷のやうでない、變な顔をして居ると思つて居る中に急に引付けると云ふやうなことがある、大抵二三才から四五才位の子にさういふことがある、それで驚いて醫者の所へ飛んで来る。醫者が診ると格別なことも實際はないのである、これは多くは大抵腸から來るので、其前日とか前々日あたりに食つた者が腸の中に溜つて居つて、それが或る徴菌の作用で分解して毒が出來るから痙攣を起す、それでありますから直ちに浣腸を掛け腸の中を洗つて出して仕舞ふと普通熱のある時は同時に熱が下がる、一回かソコラもやれば軽いのは癒る、之は元は腸に蟲が出來て反射的に痙攣を起すと云ふことを言つて居つたと同じやうに腸に不消化の物があつて大便が蓄積してさうして其爲に反射的に脳を刺戟して痙攣を起すといふことを言つて居つ

たのでありますか、近來では一種の毒が出来て毒の力で起る、それだから腸の中にあるものを取つて仕舞へば癒る、こういふやうに解釋する、さう云ふ場合に馴れぬといふと能く眞正の脳膜炎と診誤ることがある、脳膜炎の状態になつて度々痙攣を起すと段々意識も昏朦して来てポンヤリするので眞正の脳膜炎と誤診をして是は到底癒りませぬなど、宣告を與へることがある、さう云ふ時は後から行つた醫者は仕合である、前の醫者が助らぬと言つて見離したものを見た後の醫者が助けることがあり、それでありますから痙攣が必ずしも危険だと云ふのではない、それは今申す通り腸から来る所の一種の毒が出来て其毒の刺戟で痙攣を起すといふ状態である、之を普通痙攣と云ふもの、中で一番多く見る所のものであります、それであるからしてさういふ時には今申した通り素人の處置としては自宅で浣腸することが出来れば早く浣腸を掛け大便を取る、子供は寐かして置いて頭を冷して着物は堅く帶でも締めて居ればそれをくつろげておくのが宜いのである、それが自宅で間に合

はないで醫者を招んで來るといふ手當が遅れると其間度々強い痙攣を起すのであります。

それから之も學校など能く見る病氣、……癲癇構はず倒れて仕舞つて手足を頻りに震動させて身體全部に痙攣を起す病氣である、此癲癇と云ふ病氣は脳の實質に變化の有る者もあるが大抵は脳に變化がなくて起る、詰り神經の機能的障害といふ方に屬するのである、さうして持続性のものと持続性で無いものがある、持続性の癲癇になると終には脳に變化を及ぼして遲鈍性に陥るのが持前である、それからイツ頃から起るものであるかといふと早いのは二三歳頃から起り掛ける、激しいのになると日夜數回起るものもある、又十日に一遍とか一月に一遍或は二年に一遍三年に一遍と云ふやうに起るものもある、度數は一定して居りませぬが、激しいになると日夜度々起る、激しい程脳の實質に變化を起して遂にはそれが爲に脳が鈍くなつて痴呆状になるものもある、斯ういふ種類

の病氣も學校などで時々見ることがあります。が、決して驚くに足りないのである。痙攣を起して居る中に死ぬと云ふやうなことは極く少ないのである。一時時期を過ぎて仕舞へば癒るので痙攣を起して居る際に死亡すると云ふことは殆んどない。癲癇も危險のやうに見へるされども大抵自然に任して置いて癒る、それでも若し危險なる徵候があれば直ぐに相當の處置を施さなければならぬが、先づ大抵は風通しの宜い所へ連れて行つて静かに寝かして頭を冷し帶でも解いてくつろげて自然に任して置くと云ふと或る一定の時期を過ぎると癒る癰といふと痙攣が止む、痙攣が無くなれば眠る、一眠りするといふと目が覺め自身は自身の出来事となるのであります、併しそれが頻々續けて起るやうな状態であると遂に床に就いて眞の病氣になつて仕舞ふものも無いとは言はれない、此の癲癇も矢張り痙攣の中の一つである、それから又チヨイとした痙攣を起す場合も澤山あります、が、是等が重なるものであります。

それから最後に申上げて置きたいのは脳膜炎の病氣の爲に起る痙攣、是は痙攣中の最も危険なるものに屬する、勿論脳膜炎にも癒る症と癰らぬ症とがある、癰らぬのは結核性に原因するので之は癰らない、さうでない所のものは大抵癒る、併し場合に依ると之は結核性であるか、無いかと云ふ區別を中心とすることが出来ない場合がある、脳膜炎で到底助からぬと云ふても出来るだけは處置して見なければならぬ、誰れが見てもモウ助からぬ駄目だと云ふのも時に依ると盛返して来て段々宜い方に向つて來ることもある、極く小さい哺乳兒と少し大きな子とは多少趣が違ふ少し大きな子であると直ぐ分り易い、それとも哺乳兒に發する場合は御承知の通り哺乳兒は口もきけず自分に訴へる處の知能が無いから問ふても答へることが出来ない、それで先づ大體どういふ風にして起るかといふに哺乳兒の場合は乳を飲でも其乳を能く吐きさうにして泣く、大抵吐くけれども飲む度毎に吐くといふのではない、一日の中に二度吐くとか三度吐くとかする、それから大便が秘結する

こともあるし、下痢することもある、下痢する時
は不消化が原因するのである、大抵小兒の便は黃
色で、ネットリとしたやうなものでなければならぬ
のに、それが黒い色だと、或は綠色になつたりす
る、乳を吐いて綠色の便をする時は大抵小兒に異
常があるのである、それから平生極くおとなしい
子が始終八釜しいことを言ふとか、又平生元氣能
く遊んで居る子供が玩具などを見せて見る氣が
ない、只だ母親に懐かれてばかり居りたがる、さ
ういふやうな状態になると、中々油斷が出来ない、
けれども併しそれだけで以て脳膜炎の判断は出来
ないのであるが、さういふやうな状態が哺乳兒の
脳膜炎の徵候である、それから較々長じた子にな
ると多く自身で訴へる、何と訴へるかといふと頭
痛を訴へる、之が最も特有な徵候である、幼稚園
や學校などに於て能くさういふことがある、之も
始めの中は激しい頭痛でもない、又氣分も大して
さう悪いといふのではないから朝などは學校へ行
くが、どうかすると途中で痛み始めて途中から戻
つて來ると云ふ事がある、それから食慾が進まな

い、不斷のやうに物を食べなくなる、又何となく
元氣が衰へる、少し氣分が宜いとマア遊んでは居
るが、又ゴロ／＼寝たりする、動もすると頭が痛
いと云ふことを訴へる、斯う云ふやうな鹽梅であ
りますから最初は風でも引いたのであらうと云ふ
ことで過去る、それが三日經ち四日經ち五日經つ
中はどうも之は只單純な風でないと云ふので始め
て醫者の所へ駆付ける、變だ腦に變化がありはし
ないかといふやうなことになる、子供は頻りに頭
痛を訴へる、頭が痛いと云ふやうなことを言つて
元氣が振はなくなつて來ると云ふ場合は余程注意
しなければならぬのであります、隨分中には亂暴
な家庭になると其位では差支ない學校へ行つたら
宜からうなど、言て當人の進まないのを無理に學
校へやるやうな親達もあるやうであります、さ
ういふ場合は甚だ危険でありますから早く注意を
して醫師の治療を受けなければならぬ、頭が痛み
熱があつて食物がいけないと云ふ場合には矢張り
頭を冷してやる、さういふ風に聲を出して頭が痛
いと泣叫ぶやうなことは哺乳兒にはないが、モウ

さうなつて來ると脳膜炎と云ふことが十分に備つて居るのであります。それから是も少し注意すると分ることであります。が脳が遅くなつて來る、子供の脳と云ふものは非常に早い、一分間に百位打つ、少し熟度もあると百以上になる、それの反対で熱があつてさういふ状態でありながら脳が減つて七十打ち六十打ちそれも正しく打つて居らない、三つ打つては止め、十打つては止めると云ふ風に時々切れ／＼に打つといふのは既に脳膜炎の特有の徵候である、是は哺乳兒にも來るのでありますから、前に申したやうな症狀があつて今のやうな遅い不整然な脳であると、ふと醫師の診斷も直く付くのである、それから膜膜炎の進んで來るのに二タ通りある、非常に沈衰するのと興奮するのとある、興奮する方は頻りに痙攣を起す、殆ど日夜間断なく續け様にブル／＼震はす、手足を固くしてさうして全身を震はせる、さうでない沈衰の方は多く寝てしまふ、さうして手足も左ほど固くならす——少し位大なるけれども震はせるといふ程でもなく、殆ど昏

昏たる状態を呈して目を閉ぢて眠り次第にそれなりに精力が衰へて死んで仕舞ふのもある、又眠つて居る間に時々震へるやうなものもある、多く死に近付くといふと痙攣が止んで仕舞ふ、止んで仕舞ふからして良い方に向いたのであると油斷をして居るとイツか麻痺症に陥つて居るので、死に瀕して居るのであります、先づ痙攣といふのは斯んな風でありますチヨツと思付きました概略を申上げました。（完）

日本婦人の姿勢

醫學博士 田代義徳氏談

▲日本婦人と西洋婦人單に姿勢と云へば睡眠の状態も跪坐の状態も皆等しく姿勢であります。併し私が今茲に言はうとしますのは立姿と行姿であります、そこで日本婦人の立姿と行姿とを西洋婦人のそれと比較しますと大變に違つて居ります、これは敢て私一人の見る所ではありません多